

～枕崎市教育委員会だより～



TEAMまくらざき

発行 枕崎市教育委員会
枕崎市中央町184番地
TEL 0993-72-0170
FAX 0993-72-0677

巻頭言

勢いを感じた枕崎市の正月行事

枕崎市教育委員会 教育長 木之下 浩一

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

今年の正月は天気にも恵まれ、暖かく、穏やかだった。そのような中、「今年は、勢いのある、良い年になるのでは」と思える、枕崎の三つの正月行事に参加した。

まず、5年ぶりの再開となった「立神正月相撲大会」である。正月3日に実施された大会は、早朝からの実施であったため身に染みる寒さだったが、小中学生から一般まで約80人の出場選手の元気なぶつかり合いが続いた。特に、今年から女子の出場が可能となり、小中学生の団体戦では男子対女子の取り組みも見どころだった。次々と熱戦が繰り広げられ、応援にも力が入り、自然に体が温まった。勝負がつくたびに小中学生の保護者や祖父母の歓声や拍手が響きわたり、会場は熱気に包まれていた。正月早々、盛大で勢いを感じるイベントであった。この大会は、大漁豊作を祈願する正月の恒例行事として、江戸時代から続いている伝統行事だが、現在も残っているのは、立神地区だけである。このように地域の伝統行事を大切に守り、その継承に尽力されている関係者と立神地区の皆様へ感謝申し上げたい。

次に、正月3日の午後に行われた「二十歳のつどい」である。二十歳を迎える147人が来賓や出席者、恩師からのメッセージ等で祝福を受けた。前田市長が祝辞の中でアカペラのプレゼントを贈り、「二十歳のつどい」に花を添えた。実は、今年の二十歳の皆さんは、中学校3年生当時に新型コロナウイルス感染症拡大のため、3月に学校が休校となった世代である。イベントの縮小や中止が相次ぐ中、卒業式だけは予定通り実施することとなったが、来賓や2年生以下の在校生の出席は叶わず、出席できたのは保護者のみであった。当時私は、中学校に勤務していたので「寂しい卒業式だった。もっと盛大に卒業式をしてあげたかった」という思いが未だにある。前田市長も同じ気持ちで、以前からサプライズを考えられていたのであろう。元気なアカペラが響く会場は一気に盛り上がり、参加者の和らいだ表情も多く見えた。あの卒業式の寂しい思い出が払拭され、将来への誓いに勢いが出たように感じた。

そして、正月5日の夕方に開催された「田布川鬼火焚き」である。薄暮となった田布川の広場には已年にちなんで、「成長」と大きく書かれた櫓（やぐら）が組み、その前では勇壮な「火の神乙女太鼓・爽」の演奏と「枕崎舞炎鯉（まくらざきぶえんがつお）」の子供たちによる、かわいいよさこい踊りが披露された。その後、子供たちから大人へと火をつなぎ、最後は櫓に火がついた。この日は乾燥していたので櫓は勢いよく燃え、参加者は皆、無病息災を祈っていた。これは、「地域の伝承行事にはなかったが、地域の安寧と参加した方が寄り添い、集う交流の機会としたい」と、願って「夢堂たぶかわ2016」が12年前に新しく始めたと言った。赤々と天まで届かんが如く昇る火を見ながら田布川の方々の地域おこしへの情熱と勢いを感じた。

それぞれの正月行事に参加して感じたことは、長きにわたり行事を残し、伝統を大切にしようという、ひた向きさや熱い情熱と勢いが枕崎にはあること、そして計画から運営に至るまでの予めを大切に、参加者を感動させることに労を惜しまない姿勢があることである。枕崎市教育委員会もこれに倣い、今年も子供たちや市民に「良質な教育環境の提供」を続けていきたい。

2月の行事予定

日	曜	行事
1	土	
2	日	
3	月	図書館休館日
4	火	市備品監査(別府小) 市学校給食担当者研修会② 図書館休館日(特別整理期間~18日まで) 「金属鉱物資源展」~2/16(南浜館)
5	水	定例教育委員会・市備品監査(立神小) 市養護教諭研修会⑤・市社会教育委員会議②
6	木	市教頭・教務主任等研修会 学校給食センター運営委員会② 第2回南薩地区社会教育委員連絡協議会理事会(南薩教育事務所)
7	金	第21回県健康教育研究大会(県民交流センター)
8	土	土曜授業 男女共同参画ワークショップ(桜山中)
9	日	生涯学習フェスティバル
10	月	第3回外部評価委員会・図書館休館日
11	火	建国記念の日
12	水	地区館連絡会①・市地域部活動推進協議会 第2回南薩地区学校給食センター連絡協議会及び研究会(宿務学校給食センター)・すくすく講座
13	木	市校長研修会⑧ 枕崎校区地域学校協働活動推進委員会③ 第2回南薩地区社会教育担当者研修会(南さつま市民会館)
14	金	市教科部会①・桜小校区地域学校協働活動推進委員会③・市民あいさつ運動 第71回県下一周市郡対抗駅伝大会(川辺チーム社行会)
15	土	青少年育成の日 文化財展~3/17
16	日	家庭の日・市民会館休館日
17	月	図書館休館日 学校給食用物資納入
18	火	市教科部会②・市子連理事会④ 別府校区地域学校協働活動推進委員会③
19	水	第3回読み聞かせボランティアグループ連絡会
20	木	立神校区地域学校協働活動推進委員会③ 第5回南薩地区栄養教諭等研修会(南九州市立学校給食センター) 南薩地区PTA連絡協議会臨時理事会
21	金	
22	土	
23	日	天皇誕生日
24	月	振替休日
25	火	図書館休館日・市生活指導研究協議会③ 交通事故対策協議会③・校外生活指導連絡会③
26	水	第4回枕崎市図書館協議会
27	木	定例教育委員会・館内整理日(図書館)
28	金	第3回南薩地区小中義務教育学校事務職員研修会(南さつま市民会館) 優良PTA文部科学大臣表彰式(別府中:文部科学省)

令和7年「二十歳のつどい」

1月3日(金)に令和7年「二十歳のつどい」を開催しました。当日は強風が吹く大変寒い中でしたが、今年度二十歳を迎える対象者147人、一般参加者62人、来賓29人の計238人が参加しました。

式の中では、代表の田畑美空さんが「二十歳の誓い」を力強く述べ、対象者全員で大人としての自覚を新たにしました。

また、恩師からのお祝いメッセージとわたしたちのメモリー20年では、これまでの成長の歩みをスライドショーで振り返りながら、お世話になった方々への感謝の思いを改めて強くしているようになり、うかがえました。



「二十歳のつどい」の様子

新学期スタート(登校の様子)

1月8日(水)、新学期(3学期)がいよいよスタートしました。始業式当日は、大変、寒い朝となりましたが、各学校の校門付近では、児童・生徒の「おはようございます。」という元気のよいあいさつが響き渡り、先生方が笑顔で迎える姿が見られました。

また、各学校の通学路では、PTAや地域の方々などが、車通りの多い交差点や横断歩道付近で児童・生徒を見守りました。

子供たちの明るいあいさつ、寒さに負けず元気に登校する姿が、市全体を温かく包んでくれているようでした。



登校の様子

食育(食に関する指導)

子供たちが豊かな人間性をはぐくみ、生きる力を身に付けていくためには、食育の充実が欠かせません。本市では、各小・中学校において、学校教育活動全体を通じた食に関する指導が継続的・計画的に行われています。

例えば、栄養教諭が、各学校において児童・生徒の実態に応じた専門性を生かした指導を行ったり、給食に用いられる食品などをもとに、栄養のバランスを考えた食事のとり方について説明したりしています。

今後も、生涯にわたって健やかに生きるための基礎を培うためにも、学校・家庭・地域が連携し、食育の充実を図っていきます。



食に関する指導の様子

親子野球教室

11月30日(土)に塩浜グラウンドで、第3回親子野球教室を開催しました。

当日は、枕崎市地域おこし協力隊隊員及び女子硬式野球チーム「IGNIS」所属選手の今愛沙さん(元埼玉西武ライオンズレディーズ所属選手)と赤池優奈さんが講師を務め、青空の下で子供たちやその保護者と一緒に思い切り野球を楽しみました。

この日は、キャッチボールの基本やゴロ・ライナーの捕球の仕方、バッティングの際の大事なポイント等を中心に教わるとともに、野球の楽しさを改めて実感することができたよい機会にもなりました。



親子野球教室の様子

市特別支援教育講演会

12月26日(木)に、「国立特別支援教育総合研究所」の研究員の先生を招き、「学校と地域で実現する共生社会～インクルーシブ教育システムの推進

～」と題して、講演会を実施しました。障害のある子供もいない子供も共に学ぶ「共生社会」を作り上げるために、現在、国が目指しているインクルーシブ教育システムの在り方を分かりやすく御教授いただくと同時に、「みんなが共に学ぶこと」と「誰でも理解、参加しやすいこと」を両立する形の学校の在り方を考えることができました。障害のある子供もいない子供も共に学ぶ環境を作り上げるために、今後も御理解と御協力をよろしくお願いいたします。

多様な子供たちを尊重する教育～特別支援教育～

「できない」を「できる」にする環境づくり

よく、「この子は〇〇ができない」という言葉を聞きます。「片付けができない」とか、「物事を順序良く取り組むことができない」など、「できない」ことは、考えれば考えるほど、出てくるかもしれません。しかし、考え方を変えれば、「できない」のではなく、「環境さえ整えばできる」のかもしれない。

例えば、片付けが上手にできるように、色分けした箱を作り、どこに何を片付ければいいのか、分かりやすくしてみましょう。順序だてて物事に取り組めるように「することボード」を作って、順序を示してみましょう。こういった「できる環境を作る」取組を「構造化」といいます。「①何をやる場か」「②することを順序付けて」「③どれくらいすればいいのか」を考え、子供に示してみてください。きっと「できない」を「できる」にすることができると思います。